山田寺第5次発掘調査概要

昭和58年 7月16日
奈良国立文化財研究所

1，調査期日　　昭和58年5月10日～

2，調査面積　　420㎡

3，調査目的

a 東回廊建物の復原資料を得ること

b 東回廊の南北規模を確認すること

4，東回廊建物　主な出土部材

地覆(じふく)　腰長押(こしなげし)　連子窓(れんじまど)　頭貫(かしらぬき)　大斗(だいと)　巻斗(まきと)　肘木(ひじき)　虹梁(こうりょう)　円垂木(まるだるき)　桁(けた)　屋根木舞(やねこまい)　茅負(かやおい)　など

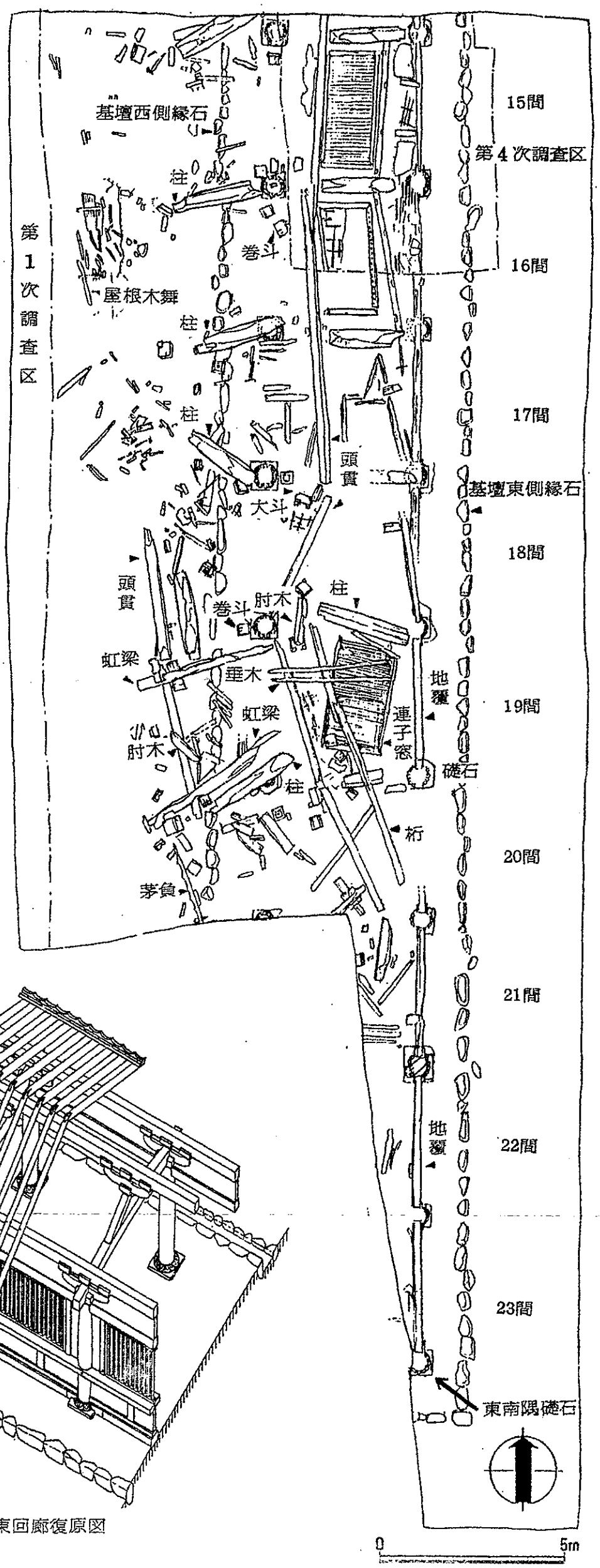
5，法隆寺回廊との主な相違点

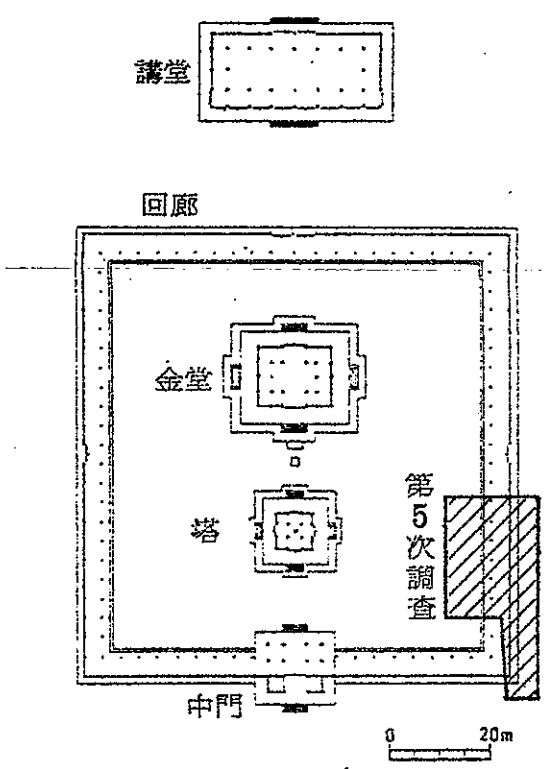
礎石に蓮弁がある。連子窓の面積が狭い。組物の細部形式が異なる。特に、大斗には皿斗盤がつかない。肘木の曲線部分に、舌(ぜつ)がつく。垂木は円垂木である。柱が短く、棟高が低い。

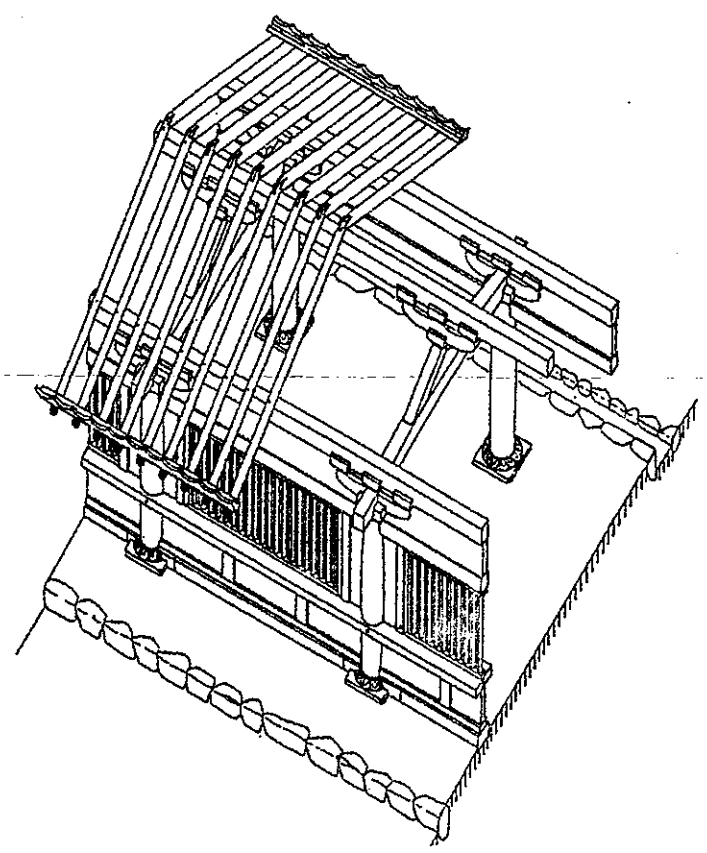
6，東回廊規模　南北23間（総長約87m）

7，建立年代　　7世紀中頃

8，倒壊年代　　10世紀後半～11世紀前半







東回廊復原図